

令和7年度学校自己評価システムシート (県立羽生第一高等学校)

目指す学校像	地域の期待に応えるため「自主・自律 求めて強き風に立つ」の精神のもと、積極的に課題解決に挑戦する生徒を育成する。
--------	--

重点目標	1 基礎学力に裏打ちされた学力向上の結果、高いレベルの進路実現を図る。 2 保護者と連携して、地域の模範となるような規範意識を醸成する。 3 活気に満ちた生徒の姿と特色ある教育活動を発信し、開かれた学校づくりを推進する。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	8名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年度評価(2月5日現在)		
年 度 目 標					年度評価(2月5日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	<p>(現状) 生徒の進路については多岐にわたり、進路実現の達成が求められる。目標の設定と達成に向けた学力向上は必須である。校内での対策として、朝読書や新聞活用等の取組を行っているが、明確な成果をあげるまでは至っていない。令和5年度入学生から導入されたタブレット端末では、授業を始めとする教育活動等で、効果的な活用が求められている。</p> <p>(課題) 生徒個人の目標の設定と進路実現に向けた、主体的な姿勢の育成が求められる。また、タブレット端末の効果的な活用方法の検証も必要であり、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善につなげていく。さらなるICTの推進が求められている。</p>	<p>これまでの取組を踏まえ、目標や進路希望を見据えた学習活動の充実を図る。</p> <p>生徒や保護者の期待に応えられる段階的な進路指導による、進路実現を達成させる。</p>	<p>○生徒の学習に対する意識改革と、スタディサプリ等を利用し、効率的な学習活動を定着させる。 ○「一高手帳」の活用を指導し、生徒の時間管理並びに自己管理及び文章要約能力を身に付けさせ、主体的な学習時間を確保させる。 ○学びの基礎診断に基づいた生徒個人への指導を実践する。 ○教育活動におけるタブレット活用を研究し、授業改善とともにICT教育の充実を図る。</p> <p>○学年毎、段階に応じた進路指導計画を策定し、効果的な指導を検証し継続的な指導を行う。 ○将来を見据え、生徒個人に主体的な目標の設定を行なわせ、具体的な達成行動を実践させる。 ○保護者の進路に対する意識の向上と、学校との協力関係の構築を行い、連携を深める。</p>	<p>○明確な目標設定を行うことができたか。スタディサプリ等を利用し、目標達成に向けて取組を行っているか。 ○「一高手帳」の活用指導を理解し、有効に活用し、主体的な学習時間が増加したか。 ○学びの基礎診断の結果の向上は見られたか。 ○校内ICT環境の十分な活用を進め、新たな取組も検討し、教職員のスキルアップにつなげることができたか。</p> <p>○学年毎に進路指導を行うことができたか。 ○生徒の実態に適した進路行事の充実と個に応じた進路選択を支援できたか。(教員アンケートにより肯定的な意見が多数を占めたか。) ○的確な情報提供が行われ、進路指導への満足度が高まったか。(生徒・保護者アンケートでの満足度が7割以上とできたか。)</p>	<p>○各学年で実施された進路指導によって、進路を考える機会となった82.5%、スタディサプリを活用しての学び直しができた。 ○一高手帳の十分に活用した生徒の割合22.4%、家庭での学習時間定着は22.0%、総探、新聞教育(NIE)活動から視野の広がりを実感した生徒の割合55.8% ○学びの基礎診断は明確な向上が見られなかった。 ○ICT機器を有効に活用した教材研究を積極的に進めている。80.0%、観点別評価の理解と指導法の工夫89.0%</p> <p>○各学年と進路指導部の連携によって学年別の内容で進路指導を行った。 ○生徒が各学年で実施された進路指導によって、進路を考える機会となったと答えた割合82.5%、補習の実施・3学年進学補習通年8講座、スタサブ利用4講座、夏期補習25講座(全学年)、冬期補習9講座 ○進路指導への満足度・生徒82.5%保護者78.8%、家庭での会話を行った割合、保護者97.6%、大学入学共通テスト83名受験</p>	B	<p>真面目で誠実な生徒が多く、朝読やNIE活動などの効果もあり、落ち着いた環境で学校生活を送っている。進路指導では、生徒や保護者が期待する指導が概ね実施できている。課題としては、生徒の主体的な行動力が挙げられる。将来の自分を想像し、今すべきことと向き合い、自ら考え行動する力をつけたい。 ・学習習慣の定着化させるために、学習の意義を確認し、定期考査等に計画的に取り組みさせるだけでなく、現在も利用しているスタディサプリを主体的に取り組みさせるように働きかけ、一高手帳の活用を促し、自己管理能力を高める。 ・総探、新聞教育(NIE)活動を積極的に活用し、卒業後も通じる行動力・思考力をのばし、生徒自身も実感ができるようなカリキュラムの検討をすすめる。 ・タブレット端末の利活用の方法や観点別評価について研究する。 ・多様な進路に対応した情報提供と補習や個々への指導の充実をさせる。 ・学力の向上を図り挑戦する意欲を身に付けさせる。</p>
2	<p>(現状) 礼儀正しく、真面目で落ち着いた生徒が多い。一方で、主体的な課題解決に向けた行動力が弱い面がある。</p> <p>(課題) 課題解決に向けた主体的な行動力と持続力の育成が必要である。進路実現と生徒指導の一体化にむけ、保護者とも連携していく必要がある。</p>	<p>学校・保護者・地域がつながり、地域に根差した学校として、規範意識を持ち、品格ある生徒の育成を図る。</p>	<p>○全教職員が共通理解のもと、定期的な整容指導と挨拶指導を実施し、規範意識の醸成を図る。 ○校内外で実施される行事などに主体的に参加する意識を高めさせる。 ○PTAと連携し、交通安全指導等を行い、事故防止だけでなく、学校の取組について地域の理解も深める。</p>	<p>○整容への意識を高め、積極的な挨拶行動ができた生徒が増加したか。 ○校内外において実施される行事などに、主体的に参加又は貢献できる生徒が増加したか。 ○生徒が安全に登校することができ、保護者や地域に学校の取組を発信できたか。</p>	<p>○一高基準(一高生としての整容や挨拶などの規範の基準)を遵守した生徒の割合91.8%、 ○ボランティア活動1回以上参加21.0%、校外のボランティア活動として、羽生ハンバーガーフェス、旭町ふれあい祭り、赤い募金、ムジナもんワイワイ祭りなどに参加した。 ○朝の交通安全指導を計画通り3回実施し、保護者及び地域に学校の取組を発信できた。</p>	B	<p>全般的に落ち着いた学校生活が送られている。課題としては、生徒も多様化しており、個別の対応が必要であることが挙げられる。 ・一高基準遵守のポイント数は高く、順守する意識が定着している。さらに意識を高めたい。 ・不登校の生徒や、相談を必要としている生徒への対応として、担任を軸とした教育相談活動やSC・SSWと連携し、効果的な推進のための体制の充実と生徒・保護者への周知を継続していく。 ・地域との連携を推進させる。</p>
3	<p>(現状) 広報活動に力をいれているが、生徒募集に苦戦している。</p> <p>(課題) 興味関心を持って学校広報に接してもらえる内容を発信し、効果的な生徒募集につなげていく必要がある。 学校の良さを広く周知する。</p>	<p>保護者や地域との関係を深め、開かれた学校づくりを推進することで、魅力ある教育活動を知ってもらい、生徒募集につなげていく。</p>	<p>○広報方法を広げ、広報媒体を有効に活用し、適宜情報の発信を続けていく。 ○地域連携や異校種交流を積極的に進め、学校理解につなげる。 ○学校広報誌を定期的に発行し、教育活動の理解を求めていく。 ○学校の特色であるNIE活動の充実を進め、取組を発信する。</p>	<p>○定期的な情報提供等を的確に行い、更新回数が増加したか。 ○年度内に地域や異校種からの要望に応え、交流を推進することができたか。 ○広報誌の発行や情報の提供によって、受検生が増加したか。 ○NIE活動の取組をHP等で発信できたか。</p>	<p>○学校説明会及び相談会を5回実施した。HP更新を年6回以上実施した教員の割合68.0%、部活動のページを定期的に更新した割合は約7割、Instagramを開設し、フォロワー数を600以上とすることができた。 ○中学校での訪問説明会を行った。羽生市や地域の要望に応え、公開講座や地域の行事に参加できた。 ○HPやInstagramを用いて、教育活動の様子を伝えることができた。志願状況に大きな変化は見られなかった。 ○情報リテラシー出張講座などの様子をHPで発信できた。</p>	A	<p>Instagramなどの新しい広報方法にも着手し、羽生市や地域との連携により、本校の魅力を発信することができた。課題としては、様々な取組が生徒募集につなげきれなかったことが挙げられる。 ・受検生が関心高められるように、引き続き情報発信を続ける。 ・中学校・羽生市・地域などからの要望には、積極的に応え、連携を深める。 ・生徒募集につながる取組を検討し、学校を活気づける。</p>

学校関係者評価
実施日 令和8年2月10日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>・教育活動が充実しているについては、アンケートなどの結果から分かる。 ・一高手帳について、書き込むことを想定しての紙媒体であることは理解できる。ただ、現代の生徒のスマホの利用状況を踏まえると、スマホなどを利用した電子媒体の利用を検討する必要があると考えられる。 ・進路指導について、満足度は日常的な対応の表れと考えられる。家庭学習状況については、どの校種においても課題となっており、引き続き向上に向けて、取り組んでいただきたい。</p> <p>・どの校種でも不登校の対応は課題となっており、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携は、重要だという認識である。 ・今年度は、中高共同で赤い羽根募金活動ができたので、今後も連携を深めたい。さらに、中高大で連携ができれば、地域連携をより深められる可能性もあるが、課題も多いと考えられる。</p> <p>・どの学校でもICTの活用や広報は課題となっており、特に生徒募集においてInstagramやTikTokの効果があるという認識であり、その際に生徒目線の投稿記事になるような工夫が考えられる。 ・さらに、地域連携を深め、有益な連携を進めてほしい。</p>